通常の学級における発達障がい等支援事業
第1回地区別事業報告会（三島豊能地区）

平成25年9月9日15:30～17:00 （高槻市教育会館）
当日参加者113人（幼稚園・こども園55　小学校44　中学校16　その他4）

１．実践報告

＜高槻市立 五百住幼稚園＞　子どもとの信頼関係を作る

６月のアドバイザリースタッフからの指導で、「ボディイメージを育てること」「子どもの心地よい距離感を探る」「楽しかった経験を貯金する」「言葉を育てる」の４点がポイントと助言していただいた。

４月からの園生活を通して築いてきた信頼関係をもとに、これらのポイントを踏まえながら、子どもたちの意欲や心情を育てることをめざしていきたい。

＜高槻市立 如是小学校＞　授業の焦点化、共有化を図る

授業の環境づくりについては、視覚化や空間構造化、刺激の低減等の工夫等に取り組んできた。アドバイザリースタッフからは、次の一歩として授業内容について、子どもたちの課題である「書くこと」「聞くこと」「学習意欲」について授業研究を進めることが大切であるとアドバイスをもらい、授業の焦点化や何を共有すればよいかの研究に取り組んでいる。

＜高槻市立 如是中学校＞　教員みんなで取り組む

学力向上のための授業づくりの取組みから出発して、この数年授業のユニバーサル化を図ってきた。アドバイザリースタッフからは、安心して過ごせる雰囲気づくりや自己肯定感を高めるよう助言していただいた。アセスメントシート活用の結果、生徒理解がまだ十分ではないことが分かり、全教員で認識を共有して取り組むことを再確認して取り組んでいる。

２．パネルディスカッション

（指導助言のポイント）

◆　幼小中で研究に取り組むことが意義深い。子どもたちが育っていく道筋を把握して、子ども理解の視点で連携することが大切。

◆　中学校ではすべての教科での言語活動の充実が大切。思考・判断・表現につながる言語活動のために学校ができることを考えるべき。

◆　校内研修において事前協議を行い「授業を観るポイント」を具体的に決めておくといった工夫をする。

＜パネリスト＞
実践研究校園
大阪府教育委員会サポートチーム
＜コーディネーター＞
高槻市教育委員会事務局

通常の学級における発達障がい等支援事業
第2回地区別事業報告会（三島豊能地区）

平成26年2月25日15:30～17:00 （高槻市教育会館）
当日参加者71人（幼稚園・こども園26　小学校29　中学校10　その他6 ）

1．実践報告

＜高槻市立 五百住幼稚園＞安心できる環境のなかで選択できる力を

子どもの困り感から支援のあり方を考え、取り組んできた。子どもとの信頼関係を築き、安心できる環境設定をするなかで、自分で選択できる力を育てることをめざしてきた。常に、教員全体で子ども理解と支援方法について共有することを大切にしている。 今後、小中学校での生活・学習を見すえ、アドバイザリースタッフから指導助言いただいた「言葉を育てる」ことについて、研究・実践していきたい。

＜高槻市立如是小学校＞支援が必要な児童の学びについて検証する

授業の焦点化、共有化に取り組んできた。アセスメントをもとに、どの子に焦点をあてて支援するのかを考え、ペア学習を取り入れたり、手立てについて工夫を重ねてきた。アドバイザリースタッフからは、「支援が必要な児童に対して必要な支援ができるように」との指導助言を受け、情報提供や手立て、補助発問等のあり方について研究している。今後、事前の指導案検討や模擬授業に重点を置き、学校全体で研究をすすめていきたい。

＜高槻市立如是中学校＞　全員が「わかる・できる」授業づくりを

アセスメントから、実態把握をていねいに行ってきた。アドバイザリースタッフから「視覚的配慮のある板書・実物・動画があること」「生徒の思考に沿ったワークシートの工夫」等の指導助言を受け、授業づくりに活かしてきた。

模擬授業や自主公開授業等、全教員で成果や課題を共有しながら進めている。今後も、レディネスの把握と具体的な支援方法を研究していきたい。

2．指導助言

（指導助言のポイント）

◆　多様な学び方、覚え方のスタイルのある子どもたちに対して、それぞれの強みを生かした支援をしていくことが大切。

◆「なぜできないのか」「どうしたらできるのか」という観点が必要。個々に合わせた目標を設定し、学習のねらいや活動をしぼることが大切。

◆「明日からできることは何か」が見える授業研究会を工夫する。（子どものための指導案、子どもをとおして授業を見る）

＜実践報告＞
実践研究校園

＜指導助言＞
大阪府教育委員会サポートチーム

通常の学級における発達障がい等支援事業
第3回地区別事業報告会（三島豊能地区）

平成26年10月28日15:30～17:00
（高槻市立五百住幼稚園、高槻市立如是小学校、高槻市立如是中学校）
当日参加者　141人（幼稚園・こども園40人　小学校　50人　中学校　20人　その他　31人　）

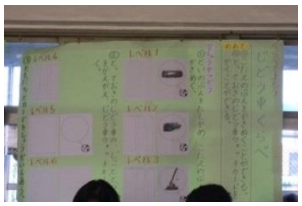
１．実践報告

＜高槻市立 五百住幼稚園＞
保育にユニバーサルデザインを取り入れて

保育室環境の整備や適切なねらいの設定、支援のタイミングや話し方、個の成長と集団の成長について、校種間の連携を見据え、教員で共通理解し実践することができた。幼児理解とわかりやすく楽しい遊びの環境構成について、視点を共有しながら更に追求していきたい。

＜高槻市立 如是小学校＞
どの子も「できた！」「わかった！」につながる授業づくり

今年度は国語科で「書くこと」について、単元を貫く言語活動を位置付け、研究を進めてきた。模擬授業を行い、アセスメントをもとに、子どものつまずきを意識し、どのような支援が個へも集団へも有効かを考え、子どもの視点に立った授業づくりにいかした。



＜高槻市立 如是中学校＞　　学びをつなぎ　育ちをつなぐ

全教科・全領域において授業研究をすすめ、これまでにいただいた助言を授業づくりにいかした。全員が参加でき安心して過ごせる雰囲気を大切にし、精選された課題、コアな発問、思考に沿ったワークシートを作成し、生徒が主体となって学ぶことができる授業をめざして取り組んだ。

２．指導助言

（指導助言のポイント）

◆ 学びにくさをかかえている子どもは、適切な支援があることによって、よりよく学ぶことができる。

◆ 授業の質をあげるためには、手立てや内容について、多面的に分析することが大切である。

◆ 幼小中で研究に取り組んだことにより、それぞれの発達段階に応じた教育を教員がお互いに知り、子ども理解の視点で連携できたことにも意義がある。

＜指導助言者＞
神戸大学
鳥居　深雪先生